



第 39 回奈良透析学会が

2015 年 2 月 1 日(日)に

奈良文化会館 2Fにて

開催されます。

当院からは

プラザ透析センター 安井暁子 看護師
西大寺クリニック透析センター 米澤麻理 主任
が

学術発表致しますので、ご紹介します。

17. 血液透析患者の推定塩分摂取量と栄養状態の評価

(医) 康仁会 西の京病院 プラザ透析センター¹、本院透析センター²、内科³
○安井 暁子(N)¹、中川 実保¹、西山 晋輔¹、高藤 節子²、渡邊 美智子¹、
古岡 伸夫²、高比 康臣²

【はじめに】透析患者の塩分摂取量は一日 6g 未満が推奨されている。しかし、減塩により、食欲低下から食卓量の不足が懸念される患者もいる。そこで、塩分と栄養状態(血清 Alb 値)を評価し、塩分を中心とした栄養指導の指標を作成したので報告する。

【対象と方法】対象は、血液透析患者 91 名(男 63、女 28)、平均年齢 65.2 歳(33~88 歳)。

方法は、平均推定塩分摂取量を算出し、推定塩分摂取量 6g/H、血清 Alb 値 3.8g/dl を基準として管理良好と不良に分類し、その結果から栄養指導の方法を検討した。また食生活に関するアンケート調査も行った。

【まとめ】

- ① 管理良好(塩分・Alb 共良好値)群 11 名(12%)で、管理不良群には、Alb 低値(塩分良好で Alb 低値)群 24 名(26%)、塩分高値(Alb 良好値で塩分高値)群 32 名(36%)、塩分高値・Alb 低値群 24 名(26%)の 4 群に分類できた。
- ② 推定塩分摂取量 6g 未満の 35 名中 7 名(21%)は食欲がないと答えた。また Alb は高齢者ほど有意に低値であった。

【結語】4 分類にしたことで、各群の問題点と塩分指導の方法が明確になった。

Key Words ; 推定塩分摂取量、栄養状態、分類別栄養指導

24. 当院維持透析患者とその家族の終末期に対する関心

(医) 康仁会 西の京病院 西大寺クリニック透析センター¹、
本院透析センター²、プラザ透析センター³
○ 米澤 麻理(N)¹、青木 昭美²、渡邊 美智子³

【目的】日本透析医学会より「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」が出され、患者の終末期ケアや意思決定支援の必要性が高まってきている。今回、患者とその家族の終末期に対する関心について明らかにした。

【対象と方法】当院の透析患者 38 名中、37 名（男性 24 名、女性 13 名、平均年齢 64 ± 11.2 歳、平均透析歴 63 ± 72.9 ヶ月）とその家族 28 名に 2014 年 5 月 1 日より 15 日の期間で終末期、維持透析の見合わせ、事前指示書についての自記式アンケート調査を無記名で行った。

【結果】終末期について、患者は 24 名 (64.9%) が知っていて、そのうち家族と話し合ったことがあるのは 6 名 (16.2%) であった。家族は 21 名 (75.0%) が知っていたが、患者と話し合ったことがあるのは 4 名 (14.3%) であった。維持透析を見合わせてもいいと思っている患者は 27 名 (73.0%) に対し、家族は 6 名 (21.4%) であった。

事前指示書を作成しているか、作成してもいいと回答した患者は 14 名 (37.8%)、家族は 5 名 (17.9%) であった。

【考察】透析患者に比して、家族の認識が低い結果となった。医療従事者は終末期のあり方について、患者のみならず家族への情報提供や積極的な関与が必要であると思われた。

Key Words : 終末期、事前指示書、透析見合わせ